

Knoppix の partimage を利用すると Linux も Windows も CD 起動でディスクのバックアップとリストアが行える。

参照

<http://u-mex.plala.jp/index2.php?LinuxTips>

より

<http://u-mex.plala.jp/index2.php?%A3%CF%A3%D3%A4%CE%A5%D0%A5%C3%A5%AF%A5%A2%A5%C3%A5%D7%A1%F5%A5%EA%A5%B9%A5%C8%A5%A2>

参照ページをそのまま PDF にしたもの

Knoppix の起動

コンソールのみ使用する場合

```
knoppix lang=us 2
```

パーティション管理

fdisk でパーティション管理

```
fdisk /dev/hda
NTFS : 7
FAT32 : c
```

フォーマット

ext3

```
mke2fs -j /dev/hda1
```

FAT32

```
mkfs.vfat -F 32 /dev/hda1
```

マウント

ntfs のドライブもマウント可能

```
mount -t ntfs /dev/hda1 /mnt/hda1
```

パーティション アクティブ

OS を起動するパーティションはアクティブにする必要がある
アクティブなパーティションを確認する

```
lilo -A /dev/hda
```

パーティションをアクティブにする

```
lilo -A /dev/hda 1
```

QTParted

パーティション管理などがよく分からないときは

```
qtparted
```

を使用すると楽。Xの起動してないと使えない

MBRのバックアップとリストアについて

一応、MBRのバックアップは取った方が良い。

partimageのMBR復帰は失敗することがあるみたい。

バックアップ

```
dd if=/dev/hda of=/mnt/back/mbr.img count=63 bs=512
```

リストア

```
dd if=/mnt/back/mbr.img of=/dev/hda
```

partimageのコマンドラインオプション

使い方：partimage [オプション]

```
例：partimage -b -f0 restore /dev/hda1 /mnt/mydir/xpsp2_20040929.img.000
例：partimage -z1 -o -d save /dev/hda12 /mnt/backup/redhat-6.2.partimage.gz
例：partimage restore /dev/hda13 /mnt/backup/suse-6.4.partimg
例：partimage restmbr /mnt/backup/debian-potato-2.2.partimg.bz2
例：partimage restmbr /mnt/backup/debian-potato-2.2.partimg.bz2
例：partimage -z1 -om save /dev/hda9 /mnt/backup/win95-osr2.partimg.gz
例：partimage imginfo /mnt/backup/debian-potato-2.2.partimg.bz2
例：partimage -a/dev/hda6#/mnt/partimg#vfat -V1440 save /dev/hda12 /mnt/partimg/redhat-
```

概要

-save：パーティションデータをイメージファイルに保存します。

-restore：イメージファイルからパーティションを復元する。

-restmbr：イメージファイルのMBRをハードディスクに復元します。

-imginfo：イメージファイルの情報を示す。

・：パーティションを保存したり/復元するために（例：/dev/hda1）

・：読まれたり/書かれるデータファイル。とても大きくできる。

復元するために、'stdin' 値を持つ。これはパイプを通して供給されている。

イメージファイルのために許されている。

オプション

-z, - 圧縮（イメージファイルの圧縮レベル）：

```
-z0, - 圧縮=0 圧縮されない : とても早いが大きなイメージファイル。
-z1, - 圧縮=1 gzip を使って圧縮 : 早くて小さなイメージファイル(標準)
-z2, - 圧縮=2 bzip2 を使って圧縮 : とても遅い、そしてとても小さなイメージファイル) :
```

-c, - チェックなし 保存する前にパーティションのチェックを行わない。

-o, - 上書き 存在するイメージファイルに確認なしに上書き

-d, - 説明なし イメージファイルの説明を尋ねない。

-V, - ボリューム (複数のボリュームファイルにイメージを分割)

-VX - ボリューム =x X MB の大きさのボリュームを作る

-w, -waitvol どちらのボリュームも変化が確定するまで待つ

-e, - 消す 0byte のある復元上の空のブロックを消す

-m, -allowmnt パーティションをマウントしたときに失敗しない。危険！

-M, -nombr イメージファイルの中の MBR(Mast Boot Record) のバックアップを作成しない。

-h, - ヘルプ ヘルプを表示する。

-v, - バージョンを表示する。

-i, -compilinfo 使ったオプションの compilatin(編集) を表示する

-f, - 終了 (完全に終了したら行う行動)

-f0, -finish=0 何もしないで待つ
-f1, -finish=1 Halt コンピュータの電源を切る
-f2, -finish=2 Reboot コンピュータを再起動
-f3, -finish=3 Quit やめる

-b, - バッチ バッチモード :GUI はユーザの行動を待たないでしょう。

-BX, -fully-batch=x バッチモード :GUI なしのバッチモード、X は一連の反応の要求です。

-y, -nosync 操作の最後にディスクを同期しない。危険！

-sX, -server=X partimaged サーバに IP アドレスを与える。

-pX, -port=x partimaged サーバの応答ポートを与える。

-g, -debug=x デバッグレベルを設定する (標準は 1)

-n, -nossll SSL ネットワークモードを使わない。

-S, -smiulate 回復モードをシミュレートする。

-aX, -atuomnt=X X オプションで自動マウント。

-UX -username=X X サーバーに証明するためのユーザ名

-PX -password=X X ユーザの証明のためのパスワード